

県立印旛特別支援学校

～「近隣の大学と連携した、校内で取り組む自然体験活動
～大学生との交流及び共同学習とともに～」

本校は印西市の南東、印旛沼に囲まれた自然豊かな環境にあり、知的障害を有する小・中・高等部の児童生徒が通っています。平成24年度には、県立佐倉南高等学校内にさくら分校(高等部普通科職業コース)を開設した、全校児童生徒282名(令和2年度)の学校です。今回の「魅力ある県立学校づくり大賞」優秀賞受賞にあたり、校内で取り組む自然体験活動を紹介いたします。

1 具体的な活動

- 本格的な自然体験活動を経験するため、学校の敷地内にシェードやテント、テーブル等を設営し、単元期間中(約2週間)常設。火起こし、薪割り、竹箸作り、フィールドビンゴ、ダッチオーブンでの野外調理などの活動に取り組みました。
- 順天堂大学スポーツ健康科学部の野外教育研究室(中丸信吾助教:現日本女子体育大学)と連携し、専門家の見地を取り入れた活動計画を共同で作成しました。単元期間中は毎日数名の大学生が来校し、大学生が火起こしや竹箸作り等のレクチャーを行うことで、お互いの交流も深まりました。
- 生徒からは、活動や大学生との交流を楽しみにする期待の声が多く聞かれました。また、保護者や大学生からも、「貴重な体験等が家庭の会話の話題となっている」、「本校生徒との交流により学生生活がより充実している」などの声が寄せられました。



2 成果

- 知的に障害のある生徒が、「パチパチと音がする」等の言葉や、匂いを嗅ぐ、煙に目をつむるなど、五感でさまざまな変化を感じ、日常生活や家庭では経験しにくい実感を伴った理解を育むことができました。
- 大学生と毎日交流し共同学習に取り組むことで、難しい活動やできなかったことに対して、自分や仲間たちと解決しようとする行動や変化が見られました。
- 徒歩圏内にある大学を訪問し、代表生徒6名が大学生約80名にテント設営や野外調理等の活動について紹介する交流会を実施しました。

3 今後に向けて

- 生徒の興味・関心のある授業づくりに創意工夫していくとともに、大学との連携や大学生の交流をより深めていきたいと考えています。
- ユネスコスクールとしてESD(持続可能な社会づくりの担い手を育む教育)やSDGs(持続可能な開発目標)の理念を基に、持続可能な社会実現のための学習、コミュニケーション能力向上、地域との交流等の広がりを目指し、取り組みを広く発信していきます。